国戦災者之霊 没者の 御 骨と 柚木 御 文夫 心的存在であり、靖國神社は、 没者の「御骨(おこつ) 所在する。 御霊

(みたま) の祀り」の中心的

没者合同慰霊祭」を左記のとおり執り行います。当協議会は、当協議会参加団体と共に、平成は

存在と思料する。

戦没者に思いを馳せ

その前提に立って、

つ、その「御骨」と 「御霊」の各々の

千鳥ヶ淵戦没者墓苑は、

戦 中

大

東 亜

戦

争

全

戦 没

者

合

同

慰

祭

の

案

内

31

年

度

(A)

「大東亜戦争全戦

の祀り」の

戦没者

全国散设者自卑尤二路第0天皇皇后両陛下

り」の意義と相関性に

几

ついて、

識者のお叱

を覚悟で、

私的考察を

題字揮毫・故 瀬島龍三氏

### 第46号

### 大東亜戦争全戦没 公益財団法人 者慰霊団体協議会

〒102-0072 千代田区飯田橋1-5-7 東専堂ビル2階

電 話:03 (6380) 8943

FAX 03 (6380) 8952 https://ireikyou.com 振替口座 00140-6-334930

圓藤春喜 國澤輝生 島根門株式会社

次 目 北 務所 部

 $\mathcal{O}$ 

移

転

印刷所

編集人 発行人

戦没者の

御

骨と御

霊

 $\bigcirc$ 

祀

1

リリ

ユ

]

島作戦と慰霊

(その

3

ソ

口

干

ンの戦い

事 協議会参 **参加団体** 

0

紹

介

から 0 報告等

務局

9 15 14 13 6

# 戦没者の御骨の祀り

<del>T</del>

公財)大東亜戦争千代田区飯田橋1

|争全戦没者慰霊団体協議会事務局||1―5―8||東専堂ビル2階|

九段の地に、ほぼ相対峙する形で「千 戦没者とその遺族に所縁ある東京都・

鳥ヶ淵戦没者墓苑

「靖國神社

が

百万体を越える戦没者の御骨(おこつ) 大東亜戦争が終結して74年、

が、 かっての戦場に埋もれ

F電 A話 X

3 3

bck05197@nifty.

6380 6380

今も帰国を待ち侘びておられる。

政府及び関係者の熱意と献身によって「遺骨収集」の名のもと、戦後の長の目標には遥かに道遠しである。今もの目標には遥かに道遠しである。今もの目標には遥かに道遠しである。今もの目標には遥かに道遠しである。今ものである。

詣でるという、 既にその痕跡があり、 基本にしてきた。縄文時代の遺跡にも を払うこと、これを先祖崇拝の祀りの 広く定着していたと思われる。 御骨を家の墓所に大事に保存して敬意 を祀る葬送文化が我が国の庶民の間で か。日本人、とりわけ近世以降の日本 火葬にしてその骨を墓所に安置して日々 では、人々はなぜ御骨にこだわるの 十一世紀頃以降には既に、 死者の遺体を火葬にして、 今日と同じような御骨 また文献によれ 、遺体を その

今日、気の向くままに山村を歩くと、今日、気の向くままに山村を歩くと、香華の絶えない風景を目にする。各家香華の絶えない風景を目にする。各家香華の絶えない風景を目にする。各家の墓所に御骨を守り、朝な夕な礼拝することによって先祖を敬い来世の安寧ることによって先祖を敬い来世の安寧の祀りの習俗は、全国津々浦々に確認の祀りの習俗は、全国津々浦々に確認の記りの習俗は、全国津々浦々に確認

送するシステムは機能していた。

とにご帰還いただき、その家人がのもとにご帰還いただき、その家人がのもとにご帰還いただき、その家人がのもとにご帰還いただき、その家人がのもとにご帰還いただき、その家人がのもとにご帰還いたが、少なくとも昭和十七年頃を出したが、少なくとも昭和十七年頃を出したが、少なくとも昭和十七年頃を出したが、少なくとも昭和十七年頃を出したが、少なくとも昭和十七年頃を出したが、少なくとも昭和十七年頃を出したが、少なくとも昭和十七年頃を出したが、少なくとも昭和十七年頃を出していた。

て遺体の処遇をした。

「理及び第二軍)は独自に規則を作っ
で遺体の処遇をした。

「現体は・・・埋葬、場合により火
は「死体は・・・埋葬、場合により火
は「死体は・・・埋葬、場合により火

結後に墳墓を構築するとした。 は一定の地に埋葬する方針であり、火 すできない場合は遺髪を本籍(遺族) な一定の地に埋葬する方針であり、火 が、遺体は現地に埋葬し、戦争終 が、遺体は現地に埋葬し、戦争終

日露戦争では、日清戦争の経験を踏発掘して内地に持ち帰ったとされる。国干渉による遼東半島還付の際、全て埋葬された遺体・残灰は、その後、三埋葬された遺体・残灰は、その後、三埋葬された遺体・残灰は、おの後、三

記された。

記された。

記された。

記された。

記された。

昭和期に入り、満州事変など戦争が い盛んに行われるようになった。 東による援護活動が推し進められ、多 異による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民による援護活動が推し進められ、多 民に対する地域住

激化してくると戦没者遺骨の還送システムにも新たな展開が出てくる。

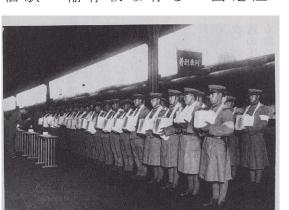
昭和六年満州事変が勃発すると、陸軍省は「遺骨輸送に関する件」を策定し、現地部隊が火葬した遺骨の送り出し、現地部隊が検討で、遺骨輸送に関する場合の運賃割引な受領のため旅行する場合の運賃割引などが細かく規定され、これにより、戦地から内地へ、そして遺族へと、遺骨が円滑確実に、敬意を欠くことなく輸が円滑確実に、敬意を欠くことなく輸

などの遺骨が安置される場所では僧侶―遺骨の輸送に伴いターミナル港・駅

送されることになった。

箱を粛然と頭を垂れて出迎える、この の声で送り出した村々が、旬日を経ず が続々と帰還し、先に出征兵士を万歳 送システムは踏襲された。 図らずも事 かけられた。 して白い布で包まれた別の兵士の御骨 も、満州事変期からの戦没者遺骨の環 属部隊での送り出しに際しての告別式、 が読経焼香を行った。 ような情景が、 変は長期消耗戦となり、戦没者の遺骨 して丁重に執り行うことが定められた。 伝達する際の部隊葬は、 昭和十二年からの支那事変において (原隊など) 当時の日本の各地で見 の遺族に遺骨を 戦地の戦没者所 従軍僧が会葬

新聞には郷土部隊戦没者の記事、慰



ターミナル駅におけるご遺骨引き渡し

霊祭公告の記事などが連日のように紙

態化していった。 攻勢期は満州事変以来の戦没者遺骨の 没者の御骨の祀り」は、 英霊に敬意が表された。 郷の市町村挙げての慰霊祭が行われ、 面を埋めた。 収容ができない、 遠送システムは円滑に機能していたか に見えたが、昭和十八年以降の戦勢悪 そして昭和十六年十二月、 近代戦の激戦の中にも当初の 戦場の各所で遺体・遺骨の ガダルカナル島敗退の悲劇 帰還した御骨を奉じて家 という事態が生じた。 こうして「戦 日本全土で常 大東亜戦

御遺骨の郷里への帰還 (年六月、陸軍は、国民に向けて次の このような事態に遭遇して、

のとする」。 こに鎮まれりと合掌して送り届けるも は墓標の一片等を箱に収めて、 或いは慰霊祭に捧げた供物の一 りとしてその遺品を、 のような遺骨なき英霊の凱旋に当たっ が家郷に帰らざることがある」「(こ 質として、玉砕や輸送中の遭難、 を奉斎することにあらゆる努力を払っ による粉砕など) 真にやむを得ず遺骨 ている」「(しかしながら近代戦の特 万難を排して遺骸を収容し、 ような談話を発表した。 上官や戦友は)せめて遺骨の代わ 戦場の土砂を、 「軍としては、 その遺骨 部 英霊こ 敵弾 又

無念や思うべしである。 葬儀を営まざるを得ない戦没者遺族の 嘆を弥増すことになった。 公報とともに遺族に送り届けられる御 骨箱の中味は紙切れ一枚、 握りといったものが多く、 大東亜戦争も半ばを過ぎると、 或いは土砂 御骨のない 遺族の悲 戦死

部隊や戦友が持ち帰った遺骨等が、 隊に留め置かれていた遺骨、 期の混乱で遺族に還送出来ないまま部 そして昭和二十年八月終戦。 復員 戦争末

> により、 戦没者遺骨還送システムは休眠状態に 海軍解体の後を引き継いだ復員局の手 入った。 達されるという暫時の経過期間の後、 御骨箱に納められて遺族に伝

全となった。

昭和十

き遺骨還送システムが完全に機能不

戦没者の御骨の祀り」の基軸である

あり、 没者の遺骨収集事業を開始した。それ 遺族会を始めとする国民の熱望に後押 何としてでも帰還させたいとの戦友会・ 墓苑に納められ、 な御骨は、 な戦場様相に加えて経年変化の所為も の故国帰還が果たされているが、 続けられ、これまで36万余体の御骨 の戦場を求めて横断的に遺骨の収集が から半世紀以上、広域にわたるかって 七年、海外(硫黄島・沖縄を含む)戦 しされて、政府(厚生省)は昭和二十 になった。 国にはご帰還されたが、お帰りいただ く家郷・遺族の見つからないこのよう の戦場に残した多くの戦没者の御骨を の特定が至難な御骨が殆どである。 その後、 お帰りいただくべき家郷・遺族 国が設けた千鳥ヶ淵戦没者 日本の独立を機に、 お眠りいただくこと かって 苛烈 故

千鳥ヶ淵戦没者墓苑が代理最終端末と 淵戦没者墓苑では春秋に慰霊祭が厳粛 を行う形に変貌したと言える。千鳥ヶ した「戦没者の御骨の祀り」は、 明治以来、 国が最終的な「御骨の祀り」 家郷・遺族を最終端末と 今や

帰還を切望しつつも果たし得ていない 切らない。 間を通じ、 に行われるが、 遺族の姿も多い。これらの遺族は、 多くの国民の参詣が引きも なかには、家郷 慰霊祭以外の日々も年 への御骨の

郷の墓所に代わって千鳥ヶ淵戦没者墓



千鳥ヶ淵墓苑

者の御骨の祀り」に参加出来る意義深 戦没者に心を寄せる一般の国民の多く にとってもまた、 の意義を見出していることであろうし、 い場所であろうと考える。 普段は触れる機会の少ない 「御骨の祀り」 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 の拠り所として 「戦没

## 戦没者の御霊の祀り

者の霊の安寧と現世の守護を念ずる祈 儀礼であるが、 死者の葬送と死者の尊厳に敬意を払う 御骨の祀り」は、 その儀礼は同時に、 御骨を奉じての 死

りでもある。

「御骨の祀り」

は

同時

に「御霊(みたま)の祀り」でもある。 日本には古来、祖霊信仰があり、各 をともに、先祖は「御霊」として祀ら とともに、先祖は「御霊」として祀ら とともに、先祖は「御霊」といる。

各家庭には墓所に加えて、朝晩供養する仏壇や神棚があり、或いは家郷の神社や仏閣に詣で、更には死者の生前の所縁の場所を訪ねるなど、御骨から遠く離れた何処の場所においても、死者を偲ぶ人々の祈りの中に「御霊」は存在することを信ずるのが、日本古来の「御霊の祀り」である。

加護を念ずるものであろう。 の御霊に敬意を表し、平安を祈り、 族の各家庭においても、宗教・宗派の とて祀りに集う参列者の各々が自らの 各戦跡地や慰霊碑、記念碑、その他の 養が行われているはずである。また、 縁故の「御霊」に対し日々、祭祀や供 如何を問わず、 や行事が厳粛に執り行われるが、それ 祭場においても、 戦没者とて例外ではない。戦没者遺 ただ、こと戦没者の死には、一 「御霊」の存在を信じ、 戦没者を始めとするご 「御霊」を祀る祭典 般市 そ

めに、崇高な任務に就き尊い命を捧げでかることなく、広く国と国民を挙げて公的にお祀り申し上げることに、で公的にお祀り申し上げることに、がある。その尊い御霊を、がある。

なかろうか。 道祭祀」によって司られてきた経緯が 没者の御霊の公的な祀り」の系譜では 神祭祀」へと発展してきたのが、 共性を持った「英霊」に対する「国家 統合する天皇の権威のもと、国家的公 それが更に明治以来、近代国民国家を りもより広い公共性を伴った「偉人」 祀」に発しつつも、祖先敬慕の観念よ 日本古来の祖先敬慕による「祖先神祭 ある。神道史上にその系譜を辿れば、 代日本誕生の明治以来、主として「神 に対する「顕彰神祭祀」へと展開し、 その「戦没者の御霊の祀り」は、 戦 沂

明治維新、日本の近代国家としての「戦没者の御霊の公的な祀り」でいたく心を痛められた明治天皇は、にいたく心を痛められた明治天皇は、にいたく心を痛められた明治天皇は、れた戦没者を祭神として祀る招魂社のれた戦没者を祭神として心になる、戊辰神治に、これらの政府軍兵士の陣没利設を命じられた。これらの政府軍兵士の陣没利設を命じられた。これによっての人間では、大阪神治、日本の近代国家としての明治維新、日本の近代国家としての

民の死者と異なり特別の意味がある。

戦没者の方々は、

この国と民族のた

靖國神社の前身である。の施設である東京招魂社が誕生した。

る。 国のために尊い命を捧げた戦没者一人々々 度にその都度、 0 戦争以来の戦没者3588柱の御霊が 央、九段坂上の地に東京招魂社の社屋 もって嚆矢とする。明治天皇のたって 成のような特定の人物は別として、名 ではない。しかし、豊臣秀吉、楠木正 神道の長い歴史の変遷の中では無い訳 て公的に行う体制が確立されたといえ して合祀が重ねられ、これによって、 合祀された。その後も、内戦・戦役の が建設され、最初の招魂祭には、戊辰 の思し召しにより、新首都・東京の中 もない不特定多数の人を神として祀る 「国家神祭祀」は、この東京招魂社を 「御霊の祀り」を、 、を神として祀る「顕彰神祭祀」 戦没者の御霊が祭神と 国が責任をもつ は

であり、近代国家建設の礎となられたであり、近代国家建設の礎となられたいき東京招魂社は担うことになる。明治天皇は国民皆兵制の近代国民軍の精神的支柱ともいう幸参拝をされた。天皇が「臣下」を祭幸参拝をされた。天皇が「臣下」を祭幸を拝をされた。天皇が「臣下」を祭幸を拝をされた。天皇が「臣下」を祭中とする祭祀施設に自ら参拝することは、古代天皇制の成立以来空前のことは、古代天皇制の近代国民軍の礎となられた。

最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。最高の社格である。

日本はその後、日清・日露・大東亜 日本はその後、日清・日露・大東亜 したが、その一人々々の御霊が祭神として靖國神社に祀られている。国の命令で出征する兵士の夫々が、戦友同士が「死んだら靖國で会おう」、家族には「死んだら靖國で会おう」、家族には「死んだら靖國で会おう」、家族には「死んだら靖國に会いに来てくれ」を合言葉に、戦場に赴き、任務のためを合言葉に、戦場に赴き、任務のためた。今日、靖國神と祖に鎮座まします祭神の数は、246万6000余柱を数える。

明治以来、戦没者の御霊を祀る「国明治以来、戦没者の御霊の祀り」を使た靖國神社は、終戦後、連合軍の占領政策により一時廃絶の危機に瀕したものの、関係者の努力もあり、一民間宗教法人として生き残り、引き続き国に代わって「戦没者の御霊の祀り」を使命として受け継ぎ、明治創祀以来の祭祀を忠実に営んできている。

戦後14年を経た今も、多くの人々が、



神社 或

き戦没者の御霊に敬意を表される。 のことである。 を表して下さる。こうした靖國神社参 朝な夕な靖國神社を訪れ、 くの外国の人も宗教の違いを超えて靖 年間600万人を超えると 日本の勇士の霊に敬意 神前に額ず 多 づく考え方である。

えて、 な祀り」の場として各地方に所在する であることは、思想・信教の違いを越 「護国神社」は、昭和十四年、 戦没者の御霊の祀り」の中心的存在 靖國神社が今も、 紛れもない事実である。 同じく「戦没者の御霊の公的 我が国における 中央で

> 没者それぞれの所縁の戦跡地において 慰霊碑、祭場などの公的場所に限らず 神社にも鎮座まします。これもまた、 するという、日本古来の神様信仰に基 も、人々の祈りの中に「御霊」は存在 各家庭の神棚、仏壇、墓所、更には戦 でも存在する、靖國神社、 され、日々の祭祀が行われているもの えして生き延びた苦渋の歴史がある。 の洗礼を受けながら、 である。これもまた、連合軍占領政策 の戦没者の御祭神が夫々選ばれて合祀 御霊」は、人々の祈りの中に何処に 靖國神社に鎮座する御霊が地方護国 宗教法人に衣替 護国神社、

り」で忘れてはならないのは、 らの感謝を申し上げたい。 ご在位間の戦没者慰霊の姿勢に、 両陛下のひたむきな戦没者への思いと なくご譲位を迎えられる今上天皇皇后 の追悼式では、正午の時報に合わせ、 席を仰ぎ、内閣総理大臣が主催するこ 式」であろう。天皇皇后両陛下のご臨 月十五日に国が行う「全国戦没者追悼 天皇皇后両陛下が全国民と共に戦没者 最後になるが、 「御霊」に黙祷を捧げられる。 「戦没者の御霊の祀 毎年八 まも

偲び、 以上、考察したとおり、 来世の安寧を念ずる「御骨の祀 死者を弔い、

る御祭神の中から該当する各地方出身 されたものであり、靖國神社に祀られ 地方における当該地方出身の戦没者の 祭祀を営む靖國神社の分社として、

への祈りの場として位置付け整備

性を改めて考察し、 らない。国及び国民全体として、 る遺族だけの「祀り」にとどめてはな またないが、こと戦没死者にあっては 進行の一体的なものであることは論を 加護を念ずる の思いで、 い命を捧げた方々であるだけに、単な 国の命令で戦場に赴き、 りと を痛感する。 活動の充実進展を期することの重要性 分析するとともに、 の祀り」のそれぞれについて、現状を 死者を慰め、 「御骨の祀り」及び「御霊 「御霊の祀り」は、 今後の戦没者慰霊 その個別性と相関 顕彰し、 国のために尊 現世の 格別 同時

うか。明治以来の先人の努力の軌跡を ることしきりである。 改めて振り返り、 れた英霊は、今どのような思いで、天 から現世の我々を眺めておられるだろ 次の世代に後を託する思いで戦没さ 現在を顧み、 反省す

### ペ IJ IJ ュ I 島作戦と慰霊

その3

和泉 洋 郎

### ペリリュ―島戦没者の慰霊 天皇皇后両陛下による慰霊

後7年の節目となる平成27年4月、

これからの遺骨収容や慰霊巡拝に多大 まで以上の加速を約束されたことは、 や、パラオ国レメンゲサウ大統領が陛 ら謝意を表します」と述べられたこと 収集などに尽力されたことに対し心か 戦禍を体験したにもかかわらず、 た、陛下がパラオ国民に対し ペリリュー島守備隊将兵にとって最高 リリュー島に行幸されましたことは、 戦没者慰霊のため天皇皇后両陛下がペ に慰霊碑や墓地の管理、清掃、 の栄誉と慰霊であったに相違ない。 下に対し、遺骨収集協力についてこれ の進展をもたらすものと期待される。 「厳しい 遺骨の



ペリリュー島を訪問された天皇皇后両陛下

終戦後の混沌たる世相

小 笠 8沖縄 <del>|</del>|台湾 原:硫黄島 南鳥島 マリアナ 諸・サイパン島 ペリリュー島 | , ÷ウルシィ環礁 ヤップ島 パラオ △トラック島 アンガウル島 0 600km セレベス プロタイ島 西太平洋地域要図

関する経緯と現状について述べたい。 ここに至るまでのペリリュ 島慰霊に

の発展を背景にして、 巡拝が行われてきたが、 などの慰霊巡拝が行なわれるようになっ 昭和28年ごろから篤志家による慰霊 「現地追悼と収集した遺骨の取扱 が確定されたのちは、 遺族・ 昭和43年に政 日本経済 戦友団体

された茨城大学の校舎となった。 (兵舎)には、旧制水戸高等学校が移 し、そののち同校を中核として新設 水戸歩兵第二聯隊跡の兵営

平成10年まで茨城県護国神社において 慰霊祭を行ってきた。 の趣旨に賛同する者が逐次増加して、 雄氏(大林写真館主)らが提唱して 鶴見鴻二氏(元陸軍大佐)、故助川次 昭和22年、 光と、先輩・戦友たちの武勲を後世に あっても、元歩兵第二聯隊出身の有志 伝えること及び英霊顕彰の熱意から、 は、ペリリュー島で玉砕した軍旗の栄 「歩二会」を結成した。それ以来、 冷厳な環境を克服して、

る形で催行されている。 に結成され、毎年12月には靖國神社で 水代神楽祭を主催し、「歩二会」及び、 在住者により、「東京歩二会」が新た 「ペリリュー島慰霊推進会」も参加す また、「歩二会」の会員の内の 東京

来ほとんど毎年継続している。 ペリリュー島慰霊巡拝を行い、 郎参議院議員)の代表30名は第1回 をもって結成された「ペリリュー島み たま会」(会長・茨城県選出中村喜四 昭和43年ペリリュー島戦没者の遺族 「ペリリュー島慰霊推進会」と改 それ以 昭和公

沢広吉氏)が結成され、 て 「三十四 (みとし) 会」 **島みたま会」と合同でペリリ** 昭和34年には、生還した34名をもつ 「ペリリュー (会長・鬼 ュ

このほ

か、

 $\mathcal{O}$ 中に にて、 した。 年 11 リリュー島慰霊会」とし、 とになり、会名を「歩二会ペ 島慰霊推進会」が合併するこ 年には「歩一会」と「ペリリュ 直  $\mathcal{O}$ 霊巡拝を行ってきた。 高齢化、 口 時代が平成に入り、 面するようになり、 月24日に茨城県護国神社 「を重ねるにつれ、 しかし、歩兵第二聯隊 初めての慰霊祭を開催 世代交代の問題に 平成 参加

> ■水戸二連隊ペリリュー島慰霊 会(平成22年に名称変更)

会員 いは、 慰霊巡拝を実施 として、 50 至っている。 園部満氏)と改称し、 リュー島慰霊会」 霊会」と改称、さらに平成22 は、  $\mathcal{O}$ 年8月には「水戸二連隊ペリ するため、 歩兵第二聯隊があって、 「水戸歩二会ペリリュー島慰 減少があり、 年の第一次慰霊巡拝を始 の高齢 水戸歩兵第二聯隊と近衛 個人での慰霊巡拝とし 第12次まで組織的 平成18年9月には、 化による参加人数 当会では、 平成 15 していたが (現会長 現在に 年以 昭和 8 •

復員者をもって結成され ラオ諸島 から 同 水戸二連隊ペリリュー島慰霊会の変遷 △:戦友会 △三十四会(昭和22年に生還した34名で昭和38年に結成) 〇:遺族会 ■:戦友・遺族・崇敬者: △**東京歩二会**(歩二会の内東京在住者で結成) ■歩二会ペリリュー島慰霊会 △歩二会(昭和22年に結成) (平成10年合併) ○ペリリュー島みたま会(昭和43 ■水戸歩二会ペリリュー島慰霊 年にペリリュー島戦没者遺族で結成) ■ペリリュー島慰霊推進会 会(平成18年に名称変更) (昭和62年に結成) ■戦友・遺族・崇敬者

では、それぞれにパラオ諸島(ペリリューは、それぞれにパラオ諸島(ペリリューは、それぞれにパラオ諸島(ペリリューは、それぞれにパラオ諸島(ペリリューとなって、全国を網羅した「照集団パラオ地区慰霊顕彰会」をも発足し、昭和45年にはパラオ地区慰霊顕彰会」をも発足し、昭和45年にはパラオ地区慰霊顕彰会」をも発足し、昭和45年にはパラオ地区慰霊弾を行っている。

昭和56年、パラオ共和国の独立に伴って、連合会は「パラオ共和国慰霊奉賛で、連合会は「パラオ全域の慰霊奉賛を目的とした全国的な募金活動を展開を目的とした全国的な募金活動を展開を目的とした全国的な募金活動を展開が、そのほかはパラオ共和国大統領党の大きのでは、2000円は、さくら会(パラオ在住の元日本人の会)の植木会長に対すて、そのほかはパラオ共和国の独立に伴って、本れぞれ直接・時間接に現地における霊地の保護と戦跡の維持などを懇請している。

## 3 英霊への顕彰

## ア 慰霊碑(1) ペリリュー島

兵第59連隊)の舩坂弘氏の篤志によっち奇跡的に生還した、同島守備隊(歩は、ペリリュー島と共に玉砕したアンは、ペリリュー島と共に玉砕したアンは、ペリリュー島に初めて慰霊碑が建設ペリリュー島に初めて慰霊碑が建設

特に第2次慰霊団の訪島した4月にも参加)、第2次8名(歩二出身小久保荘三郎・坂本徳次の両氏参加)の訪島巡拝を行った。

を同島に案内している。

| 株に第2次屋霊団は、第10次まで続島慰霊碑の初めてのものであった。| | 船坂慰霊団は、第10次まで続島慰霊碑の初めてのものであった。| | の場霊碑が行われた。これがペリリューは、ペリリュー島の慰霊碑が完成しては、ペリリュー島の慰霊碑が完成しては、ペリリュー島の慰霊碑が完成しては、ペリリュー島の慰霊碑が完成しては、ペリリュー島の慰霊神が完成して

### イ 墓苑の決定

佐藤内閣総理大臣を表敬訪問したとこだすマラヴィラ氏ほかの島の有志6名が、ローバル・オバック、村長サブロウ・応じて来日した、ペリリュー島酋長ク応じて来日した、ペリリュー島酋長クの招請に、「ペリリュー島

交された。

一万ドル(目録)を手墓苑提供および島全体の英霊の鎮護なの慰霊碑建立、遺骨仮安置についてのの慰霊碑建立、遺骨仮安置についてののをまではいまがあるとともに、今後のは、総理は同島における遺骨収集など

跡保存のことについて強く訴えた。 跡保存のことについて強く訴えた。 跡保存のことについて強く訴えた。 な心して訪島し、曾長に渡すと共に関金化して訪島し、曾長に渡すと共に関係する島の有志及び地主たちに懇請したのが表生しても合意らの永久管理(無料)に関しても合意らの永久管理(無料)に関しても合意に達して覚書を交換し、ここに同島のは悪事業の基盤が確定した。なお、こをの遺族、生還者及び関係者が参集しての遺族、生還者及び関係者が参集しての遺族、生還者及び関係者が参集している。 をを歴訪したので、それぞれの地方の遺族、生還者及び関係者が参集しても合意をともに、英霊のお守りと戦を犯するとともに、英霊のお守りと戦を犯するとともに、「みたま会」事務局と、

ウ 慰霊塔「みたま」ほかの碑

長・村長をはじめ小学生まで島の人たに慰霊塔「みたま」(納骨堂併設)を建立した。同年3月30日、この竣工式典には、「みたま会」第二代会長茨城建立した。同年3月30日、この竣工式県玉造町長・坂本常蔵氏(中村議員は県玉造町長・坂本常蔵氏(中村議員は間年12月急逝)以下「みたま会」を記載する。

同 島空前の盛事であった。なお、碑名 と ちほとんどが参列して、遺族代表深谷 と ちほとんどが参列して、遺族代表深谷と ちほとんどが参列して、遺族代表深谷と ちほとんどが参列して、遺族代表深谷

に数多く建てられている。十四会の「戦友よ安らかに」の碑など、十四会の「戦友よ安らかに」の碑など、「みたま」の塔を囲むようにして周囲戦友・遺族らの建立した慰霊碑や三のほか日本政府の建立した慰霊碑や三のほか日本政府の建立した慰霊碑や三のほか日本政府の建立した慰霊碑や三のほか日本政府の建立した財産のは、前述

員の揮毫によるものである。

「みたま」は厚生大臣、碑文は中村議



ペリリュー島慰霊塔「みたま」(中央)

# ¬本汝守は、ペラオ共和**一 西太平洋戦没者の碑**

えられ、 典には、 立した。 得て、パラオ諸島およびその周辺海域 和国関係者、島の人たち多数参列して 島南岬へ「西太平洋戦没者の碑」を建 戦没者慰霊のため、昭和6年、 厳粛盛大に行われた。 日本政府は、パラオ共和国の協力を なお、この碑の周辺は、ペリリ 全国から遺族代表、パラオ共 4月12日その竣工、 天皇・皇后両陛下の生花が供 ペリリュー 慰霊の式 ユ





「水戸歩兵部隊の跡」の碑

### (人) 水戸市

賛同者・笠間市・故中野慶吉氏ほか8 設の要望が起こった。 の武勲を後世に伝えるため、 かつての戦友ら約1500名が参集し 記念碑の傍らに「水戸歩兵部隊の跡 練兵場の一角、尼港(ニコラエフスク) ことができた。これによって、 449名から、 して、過去に水戸歩兵聯隊に在隊した 跡保存会」(会長鶴見鴻二氏)を結成 歩二会を骨幹とした「水戸歩兵聯隊遺 ことのあった者から広く浄財を募り、 碑を建立した。昭和41年4月17日、 昭和38年ごろから、 - 水戸歩兵部隊の跡」の記念碑建設 歩兵第二聯隊をはじめ関連部隊 417万余円を集める そこで昭和40年、 歩二会総会にお 記念碑建 元堀原

のたちを偲ぶよすがになっている。

敷を讃え、かつてここに集いしつわも祭を挙行した。以来、これが英霊の武で盛大な竣工除幕式と、厳粛な大慰霊

### 遺骨収容

まだ2割以上が未収容ということにな 30年度までに収容された御遺骨は、7 たのちの、昭和42年からであった。 容は、大東亜戦争の全域調査が一巡し る。したがって、これら異境の地に留 月の経過に伴って密林に覆われ、 や洞窟など至る所に散在しており、 る。これらの御遺骨は、島内の陣地跡 千791柱となっている。したがって、 次調査が行われたが、本格的な遺骨収 昭和28年1月に、日本政府による第 まる御遺骨の一日も早い御帰還が望ま 容に困難性を増しているのが現状であ いは埋没・海没するなどして、 1万22名とされており、そのうち平成 ペリリュー島における戦没者概数は 「リリュー島の遺骨収容については 発見収 ある

の友好親善の一翼を担っている。

島平和公園と名付けて整備され、

両国

実施されている。

実施されている。

東施されている。

東施されたことにより、現在では、年会」(会長・尾辻秀久参議院議員)が般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協農情収集及び関連する事業を行う「一半成28年7月に、国の行う戦没者の平成28年7月に、国の行う戦没者の

年度	1952	1967	1972	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1981	1983	1985	1987
収容数	151	1300	3355	250	1236	171	5	186	202	172	57	195	61
累計数	151	1451	4806	5056	6292	6463	6468	6654	6856	7028	7085	7280	7341
年度	1989	2001	2003	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
収容数	87	110	60	1	11	6	7	1	9	19	15	79	45
累計数	7428	7538	7598	7599	7610	7616	7623	7624	7633	7652	7667	7746	7791

表 ペリリュー島遺骨収容状況

### (9)慰霊第46号 平成31年4月1日

ジの表のとおりとなっている。 ペリリュー島遺骨収容状況は、 前

### 5 ペリリュ―島の戦跡保存

路の開設を、イサオ・オバック氏に依 リュー島戦跡保存施設設置に関する覚 進会会長井上幹一氏との間に、「ペリ バック氏と歩二会ペリリュー島慰霊推 2月17日ペリリュー島酋長イサオ・オ 昭和62年歩二会第4次慰霊団の巡拝時 路の基点位置に建立し、同時に中川連 を彫刻した顕彰碑を、先に解説した道 島における戦闘に参加された全部隊名 頼し、この事業は年内に完成した。 たのち自決された洞窟にいたる間の道 書」を交換した。その第1次事業とし さらに第2次事業として、ペリリュー まず、中川連隊長が軍旗を奉焼し 一会ペリリュー島慰霊推進会は



中川連隊長自決洞窟前の記念碑

5次慰霊団の巡拝時に除幕式を挙行し たり打ち合わせを行い、 2月に関係者が訪島して、イサオ・オ 立を計画しており、このため昭和63年 ック氏及びそのほかの方と細部にわ 同年2月の第

継続し、これらを通じて絶えることな に拡充して、墓参・戦跡保存の事業を 歩二会から顕彰碑記載の全部隊関係者 く、英霊にこたえていくべきものとし そのあとは、 前記推進会の覚書を

述べられたことにより、 しい歴史があったことを、 して忘れてはならないと思います」と 陛下が行幸にあたり「このような悲 私どもは決

> ならない島」となった。 島」ペリリュー島が「決して忘れては けなくてはならないということである。 国の英霊を未来永劫に顕彰し慰霊し続 日本国民は、 ペリリュー島における殉 つまり、 我々

戦跡として保存されている日本軍戦車

幸雄氏から多大のご協力を頂いた。 隊ペリリュ―島慰霊会」事務局長影山 編)を参考とした。また、「水戸二連 聯隊史』(水戸歩兵第二聯隊史刊行会 本稿執筆にあたり、 『水戸歩兵第三

た。

者を除いて、

全守備隊は任地で玉砕し

### 北 部 ソロ Ŧ ンの戦 い

### 2

隊長の自決された洞窟前に記念碑の建

10月初めには同島から撤退した。 18年2月、 の進撃を続けていた陸軍部隊は、昭和 の攻勢を迎え撃ち激戦が展開されたが ニュージョージア島において、連合軍 7月~8月にかけては中部ソロモンの 昭和18年9月末の御前会議において 大東亜戦争開始以来、 ガダルカナル島から撤退後 各戦場で破竹

軍は、 数名の脱出者と後方にあった補給関係 敢闘も、 タロキナ地区に上陸、日本軍守備隊の 力の前に敵すべくもなく、命令による ビル島西部及び南部の防衛、 団に同島東部及び北部の防衛を命じた。 連合軍は、 10月15日、 圧倒的に優勢な連合軍上陸戦 11月1日ブーゲンビル島 第6師団にブーゲン 第17歩兵

撃を敢行したが、敵迫撃砲の集中射撃 絶えたことから、10日、後退した。 に「上陸した敵米軍の撃攘」を命じた。 の西地区警備隊(連隊長濱之上大佐) で水に漬かりながら湿地を通過して攻 て、第6師団長は、歩兵第23連隊基幹 により損耗が大きく、弾薬の補給も途 濱之上部隊は、 連合軍のタロキナ上陸の報告を受け 11月8日から、

354機による攻撃であったが、 陸上・海上航空機、艦上爆撃機等延べ 月5日~12月3日の間、数次にわたり 行われている頃、海軍航空部隊が、 により、 を過大に判定したため、 航空戦を展開した。これらの航空戦は、 歩兵第23連隊を基幹とする地上部隊 連合軍橋頭堡に対する攻撃が 戦闘指導に大きな影響を与え 事後の陸軍側 11

米軍は、 日本軍の交通連絡の分断

された第8方面軍命令を受けて、

設定された、

絶対国防圏に基づき策定

前号の要約 岩田 司 朗

諸施設・軍需品の破壊

情報の収集等

撃退された。 11月29日未明、 の目的を推進するため、 海岸に上陸させたが、 て詳細な情報のないまま 襲撃部隊をナポイ北方 岩佐支隊により 日本軍の兵力、

### 10 (1) 全般戦局 第6師団の第2次タロキナ攻撃

格的攻撃を開始し、 拠点シオを強化しつつあるところを、 ない状態になっていた。 軍側の手中に落ち、 背後連絡線を遮断されてしまった。 図する第18軍(第20師団)は、 軍はニューブリテン島ツルブ地区に本 1月2日連合軍がダンピ岬付近に上陸、 急迫を告げていた。 (松田支隊) は、上陸した敵を邀撃 ダンピール海峡西岸要域の保持を企 陸海航空戦力の消耗は著しいものが 昭和19年を迎え、南太平洋の戦局は 連日激戦を交えつつ越年した。 その妨害を受けずには実施でき 南太平洋の制空、 即ち、前年末連合 洋上沿岸の海上輸 同地の第17師 制海権は連合 最後の 寸 る海上輸送は全く遮断されることになっ

# 連合軍のグリーン島進攻

する島であり、直径約6㎞の円形の環 ラバウルの真東わずか200㎞に位置 グリーン島はブカ島の北西に位置し、 日本側は、 この島

基地として使用していた。 をブーゲンビル島に対する舟艇の中継

るため、 および上陸作戦前の航空攻撃を実施す ビエン地区に対する陸上戦闘機の掩護 連合軍は、ニューアイルランド島カ グリーン島の攻略が提案され

本側の反撃はわずかな射撃以外には実 朝に行われ、2時間以内に5,800 施されなかった。 名と全補給装備品が揚陸されたが、日 ランド師団)の上陸作戦は、2月15日 グリーン島攻略部隊(第3ニュージー

とにより、ラバウルから第17軍に対す 3月7日に概成した。 て日本軍は3日間の戦闘で玉砕した。 部で行なわれ、19日まで続いた。そし グリーン島が連合軍に占領されたこ 米側の当初の目的である飛行場は、 日本軍との戦闘は、 翌日から島の南

### 3 第6師団の攻撃部署

800高地、天王山以西の地区より第 を以て「ピチャ」山附近、 所に捕捉撃滅す」との方針のもとに、 日エレベンタを出発、 一、第三飛行場を攻略し引続き敵を随 第6師団長神田正種中将は、 (師団山)に到着し、 3月初旬、 「師団は一部 主力を以て 2 月 19 八重

> 九重山~小劍山地区に陣地を占領した。 域に部署するとともに、山砲の主力は する歩兵第23連隊等)、 眞方支隊 兵第13連隊の2大隊基幹)を所要の地 、岩佐部隊 (歩兵第45連隊、 (第6歩兵団長の指揮 牟田部隊 山砲1大隊 (歩

### 4 米機動部隊のトラック諸昌智襲

た。 が突如トラックに召還されることとなっ が壊滅に近い打撃を受けたため、その そして、連合艦隊直属の基地航空部隊 機動部隊がトラック諸島を急襲した。 備の最中、2月17日、18日の両日、米 補充として南東方面の全海軍航空兵力 第17軍諸隊のタロキナ第2次攻撃準

このことは、劣勢ながら所在 根本的に弾発力の

Ш

### 11 (1) 800高地正面(岩 第2次タロキナ攻撃の戦況 佐部隊正面)

第六師団の攻撃構想

ビバー川

兵の急襲射撃と共に攻撃を開始分、タロキナ飛行場に対する砲第17軍は3月8日午前4時15 00高地南方に展開し した。眞方支隊配属砲兵及び6 た歩兵第

ラルマ川

13連隊第1大隊が、これと連携し牽制 の目的で射撃を開始した。

きないような急斜面であった。 は、ほとんど接地射撃をすることがで 接近経路も、 800高地に対するどの方向から 山頂を占領する米軍から

榴弾戦の後、 が敢行され、 攻撃は頓挫したが、第2回の夜間攻撃 が瞬時にして13人となる損耗をきたし、 撃部隊を急襲し、総員200人の中隊 霧の中での攻撃を継続した。この攻撃 に連接して約15分の米軍艦砲射撃が攻 を奪取した。 歩兵第23連隊は、夜暗を利用し 800高地鞍部 9月0200、 (天目山 熾烈な手 雨と

あった。 ないものに落ち込ませるもので 航空部隊の活躍に一縷の望みを 導の性格を、 かけていた南太平洋の持久戦指

たが、日本軍は12日午前11時、 弾であり、米軍は火力(飛行機と砲、 企図する、 破口が拡大しないうちに閉塞しようと 張し突破にまで持ち込もうとするのに な進展を妨げ、戦闘は鞍部のトーチカ トーチカを占領した。 の争奪戦で一進一退の近接戦闘であっ いた。日本軍の頼みとするところは肉 角に突入した日本軍がその戦果を拡 である。険しい地形が戦況の急速 米軍は予備隊と火力を集中し突 力と力の正面衝突になって 米軍橋頭堡の 最後の

の死体309、 4日間の激戦の末、 一時後方に退った。米側は、日本軍 米側の戦死を78と記録 命により日本軍

### (2) 600高地 正面の戦闘) 正 面 (牟田部隊

円丘の総称である。米軍側の陣地編成 0 m程離れたところにある南北2つの あった。 を連ねる主抵抗線に対する前進陣地で では、600高地はピチャ山~態高地 600高地は、主抵抗線から約80

隊の生存者を北方の円丘に 米軍陣地の大部を蹂躙し、米軍守備部 奪取を企図し、10日午前4時過ぎ、 牟田大隊長はまず600高地南丘の おりからの薄明を利用して 駆逐した。 突

にかけて継続された。 600高地を巡る死闘は 12 日 ~ 13 日

800高地の戦闘は、

されている。 死8、行方不明4、 円丘に集中し、日本側死者の屍は56 激しい砲撃が3月18日まで実施され、 攻めあぐんでいた。戦車の使用を企図 を奪回しようとする米軍も、 していたが、これを攻撃して前進陣地 隊の戦力は、連日の死闘で急速に低下 0を数えたという。米軍の損害は、戦 105 ㎜砲弾10, ではなかった。 の正面も戦車が戦闘できるような地形 したが、800高地と同じように、こ 日本軍南円丘守備部隊である第3大 米側の記録によれば、 負傷581と報告 000発以上が南 南円丘を

## (3) 眞方支隊正面

地前の林縁に達し、隠密裏に突撃陣地発した眞方支隊は、午後3時頃、敵陣 を構築した。 3月11日、南平山周辺の集結地を出

射撃が開始された。夕刻までに、午前 焼野原となっていた。歩兵第45連隊の 0 取したトーチカ5個を確保していた。 将兵は力攻に努め、12日夕刻には、奪 中新緑であった密林は枯枝の林立する 午後4時頃、 13日払暁、眞方支隊は歩兵第53連隊 m、奥行1,000 俄然右側一 mの地帯に弾幕 2個大隊を第 帯の幅50

> 後のタロキナ戦の帰趨を決めるよう しかしながら、この日の戦況は、そ 米軍戦

線とする突破態勢を堅持していた。

傷56という損害を与えたが、支隊も手 将兵は乏しい弾薬と肉弾で応戦した。 チームによる3次にわたる反撃により 戦死体190と記録している。 歩戦チームの攻撃に対し、眞方支隊の 還し、米軍は元の戦線を回復した。 ひどい打撃を受けた。 米側は日本軍の 日本軍が占領した総てのトーチカを奪 1個小隊を第一線連隊に配属し、歩戦 米軍戦車1台を破壊し、戦死7、負 13日~15日の戦闘において、米軍の 米軍は突破口を閉塞するため、

### (4) 主攻変更、攻撃再興 主攻変更

地の一部を突破したところで払暁となっ を利用して、第1大隊を超越し米軍陣 支隊正面に変更する旨の決心を下した。 3月15日までの各方面の戦況に鑑み 眞方支隊第3大隊は、16日夜の月明 第6師団長は、攻撃の重点を眞方

の下で、3回にわたる米軍戦車の逆襲 を迎えて、凄烈な肉弾線が展開された。 第3大隊は殆ど半数が戦死し、 米軍の反撃が始まった。猛烈な射撃

> となった。 網の線をかろうじて保持している状態 とく玉砕、 線の鉄条網を超越進出した者はことご 残る十数名が第3線の鉄条

再編成して攻撃を再興することとした。 が始まった。 きると、俄然、米軍の砲、迫の猛射撃 に進捗したが、暁闇が去って視程がで 歩兵部隊の攻撃は、払暁頃までは順調 始され、23日薄暮から前進を開始した 急襲火力並びに強力な敵戦車の執拗な **反撃を受け戦力消耗が著しく、部隊を** 24日午前4時、我が砲兵の射撃が開 17日~19日の戦闘では、敵の 熾烈な

ら約25ヤードの低い稜線まで到達して 突破し、その先端は米軍の大隊本部か 日本軍は、第一線中隊の小隊拠点を

歩兵第45連隊の先頭大隊の第2大隊で 当該正面の戦闘に加入できる総ての砲 その稜線を奪回した。午前7時過ぎ、 ある。壮絶な肉弾戦が展開された。 突進を開始した。これを迎え撃つのは、 兵火力支援の下に、この歩戦チームは 1コ小隊が協同して反撃を行い、まず この戦闘に関する詳細な資料は日本 米軍は歩兵、 対戦車、 戦車それぞれ

側に現存していない。大本営が整理し に戦闘特報によれば、 迫撃砲の 猛射と0700 「眞方部隊は敵 9

0

 $\begin{array}{c} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{array}$ 

部隊は、対戦車火器の殆ど全部を喪失 連隊全体の立場から第2大隊の玉砕を の逆襲を受け、 取り扱っている。 近を保持するの状況に至れり」として、 して玉砕し、辛うじて第一線鉄条網附 北鴨川左岸に進出した 頃各々戦車を有する敵

連隊第3大隊も、正午頃、米軍の逆襲 凹されるに至った。 を受けほとんど全滅し、その陣地は奪 旧眞方支隊正面を攻撃した歩兵第53

### イ24月夕における師団 軍の措置

師団参謀長から、次の要旨の筆記電話 による報告が入った。 24日午後6時、 軍戦闘司令所に第6

との任務にもとづき、4月1日、

の旧兵站線沿いの後退を開始した。

見込みはない。 が僅少であるので、 撃を再興するが、砲兵力、 部隊を超越して、突撃準備位置から攻 「25日薄暮から牟田部隊をもって眞方 遺憾ながら突破の 対戦車火器

車火器のない限り、精神力だけでは兵 後師団は河野部隊の鶴屋大隊 敵の逆襲は歩兵でなく戦車である。 は一人の敵兵をも道ずれにすることな の集中火力を制圧すべき砲兵力と対戦 師団は、任務に基づき攻撃を続行す 第一線と後方部隊を遮断する迫撃砲 敵火の餌となって玉砕してしまう。 牟田部隊の玉砕は必至で、その (約40

第6師団長の苦衷を察し、 意見具申を行う決定をした。 的に方面軍に対して攻撃中止に関する この報告を受けた百武軍司令官は 軍から自発

陣地に対する攻撃を一時中止し、転進 軍司令官の所信に一任」という方面軍 せしめて執拗に敵の飛行場使用を妨害 もってタロキナ東半部の敵に近く接触 決心のもと、所要の命令を下達した。 の目的を以て態勢を整理する」という 命令に基づき、軍司令官は「当面の敵 及び南部を防衛し次期攻撃を準備する」 し、主力をもってブーゲンビル島西部 25日夕刻、 第6師団は、「師団の有力な一部を 「じ後の攻撃については

礎配置の態勢に復帰した。 極めて小規模であったが、 ながら、4月末、おおむね作戦前の基 道化した経路での撤退は、 これに対する米軍側の出撃、追撃は 既に白骨街 困難を極め

00名、 れている。 次タロキナ戦の損耗は、 第8方面軍作戦記録によれば、 戦傷約7, 100名と記述さ 戦死約5,4 第 2

### 12 (1)第17軍の11月頃までの状況 第17軍の持久作戦

第17軍は、 昭和19年3月25日の方面

0)を残すだけになる。

頭堡に対する攻撃を中止し、 末ころまでの間に次期作戦を準備する 軍命令によって、 ための新態勢に移行した。 連合軍のタロキナ橋 じ後5月

た。 心とするブーゲンビル島南部地区であっ タ方面、じ余の主力はエレベンタを中 配置の大要は、 タリナ地区、歩兵第45連隊がキエ 第17歩兵団がヌマヌ

ころ撤退した。 その後、8月にも連合軍は約300の らマワレカ付近の海岸に米軍が上陸、 兵力でジャバ川左岸に上陸し、 行動はとらなかったが、6月には活動 撤退には追尾することなく、積極的な を開始し、上旬と下旬にジャバ河口か タロキナ方面の連合軍は、 日本軍 、同月末  $\mathcal{O}$ 

諸部隊は、まず現地自活態勢の確立に 要することもなく推移し、この間、 全力を注ぎ込んだ。 返されたが、全般的には大きな顧慮を このように、小部隊間の戦闘が繰り 軍

作戦を最後にほとんど消尽し、ラバウ 隊の糧食事情は一層深刻化してきた。 ルからの補給が途絶しているので、諸 後少なくもほぼ3カ月を要し、特にタ 培であったが、その収穫には植え付け 当時の軍の保有糧秣は既にタロキナ キナ作戦で甚大な損害を被った後、 現地自活の対策は主として甘藷の栽

> 極端に悩まされることとなった。 た部隊は、 転進して急遽農耕を開始することになっ 疲労と栄養失調の両面から

てきた。 失調が蔓延し、これによる損耗が目立っ に従事するに至り、給養の不良と疲労 早いものは19年10月頃から甘藷によっ の累積にともなって、マラリアや栄養 隊は20年1月から2月頃までかかった。 し、一部の部隊は自活を放棄して戦闘 て主食を確保するに至ったが、遅い部 そして、この間には、戦況も活発化 現地自活の態勢の確立に時日を要し、

3, 病死であると推定される。 は、大部分このような事情に基づく戦 10日現在、 月下旬の方面軍の報告によれば、12月 約4万を算したはずであるが、 タロキナ作戦終了後の軍の総兵力は、 053名である。この人員の減少 ブーゲンビル島の兵力は2 19 年 12

# (2) 豪軍の進出と西地区警備隊の

豪軍への指揮転移

担任する豪第3師団との指揮転移は、 11月22日である。 14軍団とブーゲンビル島で地上作戦を タロキナ海岸に橋頭堡を確立した米

することを中心とする戦術を採ってい 、ラバウル等に対し戦略爆撃を実行 米軍がタロキナ航空基地から、

上行動は積極的であった。

上行動は積極的であった。

という基本で、という基本で、場に在る日本軍を全面的に撃破する。という基本で、場に在る日本軍を全面的に撃破するための計画を準備する。という基本で、光

13 貝、 が翌20年1月上旬、3方向それぞれ開 11月24日、 するように作戦を行う」旨の訓令を出 カ川の南に至る地域から日本軍を駆逐 が開始されることとなった。 本軍を撃滅する。 ジャバ川からブリア マヌマ地区に対する作戦行動が、 最終的には南部ブーゲンビル島の日 **蒙陸軍公刊戦史の記述によれば、** 豪軍団長は豪第3師団長に対して、 豪軍のジャバ川以南の本格的攻勢 北部ブカ水道方向に対するもの2日、南部のモシゲタ方向が12月2日、南部のモシゲタ方向が12月 西地区においては、 12 月 23 年ヌ

た。 両軍の斥候が、激しい戦闘を繰り返しウーバイ川に至る海岸地区では、日豪り1月下旬のこの時期、ジャバ川から

# - 西地区警備隊の戦闘

た、同地区に対する糧秣、弾薬の補給1月4日、参謀を警備隊に派遣し、ま的な戦闘指導を要望するところがあり、団長は、西地区警備隊長に対して積極団長は、西地区警備隊長に対して積極

を処置した。

隊長の指揮する一部兵力を残置し、警 作戦させるという指導方針を決定した。 明瞭になったこの段階では、 備隊主力はまずホ のもと、ジャバ方面に対しては第2大 レカ方面でこれと決戦するという決心 至と判断した。そこで1月9日、 南下しているので、 田大佐 対する増援は行わず、所在兵力だけで 西地区警備隊長 ただ豪側の真面目な攻勢企図がほ は、ムベシ方面の豪軍が逐次 (歩兵第13連隊長牟 マワレカ攻撃は必 西地区に マワ

角を豪軍に奪取された。戦したが、1月14日遂にその一は豪軍の猛攻をうけ、数日間奮ところがこの時点でマワレカコトワに進出した。

回を企図して1月20日頃から反回を企図して1月20日頃から反うれながら、すき腹をかかえてされながら、すき腹をかかえての行動であり、成果は得られなかった。

河口〜モシナ〜ニギタン方向にてマワレカ〜モシゲタ、ジャバすると共に、各1個大隊をもっピナ岬からブリアカ河口を占領。連合軍側は、一部をもってムッ

JR水道橋駅西口 JR飯田橋駅東口

9 分分

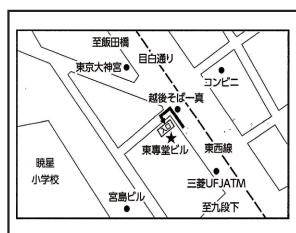
進撃した。

Ę 長は、 補給兵站基地として活動したモシゲタ から、 ら始まった。 についに放棄され、 ブリアカ川左岸への後退を決心した。 キナ上陸以来、 かくして昭和18年11月、 豪軍のモシゲタ攻撃は、2月22日か 昭和20年2月末、 師団命令の趣旨に鑑みて、25日 敵が後方深く浸透している状況 交戦3日、西地区警備隊 常に第一 日本軍はブリアカ 豪軍の攻勢の前 連合軍のタ 線に対する

## 事務所の移転

寄り下さい。お近くにお越しの折はお立ちでの業務を開始しました。での業務を開始しました。事務所を1月末に左記住所に事務所を1月末に左記住所に

東京都千代田区飯田橋1丁目〒102‐0072



### 協 議 会 参 加 寸 体 **ത** 紹

介

### 戦 平 没洋 者戦 慰争 協

紹 戦 同介没今 者回 ま慰は 霊 会 をは す 協 太 の対 活 地 動 た名戦昭域 に平 称 没 和 で つ洋 に者41の い戦 改慰年戦 て争

### (公財) 太平洋戦争戦没者慰霊協会が整備又は整備を支援した公苑・慰霊塔

慰力に

をにに年て

慰ロ

公

を 島 ジ

備

七

ン  $\Delta$ 

苑 諸 島

整ガー

しル村

ダコ

は

グ

ア

アバい碑ル55和と連州で等島年45し

ハブ昭建平はに

L

す。

バア和立和ソ

にい

年 7 霊

で等島年45

称 霊 11 没 協 月 者

設平財

さ22南

し現洋

太 L

亚 て、

立成

れ年

ま に

協月者

目

的

南



ま

L

和

霊

公

す

るた 霊

 $\Diamond$ 

周

辺

をが

維

政海邦ま持以

委建事成事

された。

施の成は

し調15

実碑平ら続苑

て査年中い霊

い事か国ま碑

ま業ら残す。の

立業4業慰

か 継

L

7

をは留

か民支

ら間援

託

れ霊

とが口領

碑連州

を邦ラ

同ク

慰シサ次霊ナ

ロン59

7 1

スに、

事協市平マま

業会に成し

行公政年シ

い苑府にア

シベリア平和慰霊公苑 ロシア連邦ノゾロフスク市 H2年政府建立支援

を悼木1バ地お

与式県6ガ区いま を護2ン所て

実国名地在は、

し社参に政ヤ

神列お府

い建

慰 霊

達嚴禪霊碑力共

に粛社巡前ラ和

感にと拝及ツ国

銘追栃団びパに

<u>\\</u>

と施神が区の

地職し

ょ

元

人 n



ラブアン平和慰霊公苑 ーシア領サバ州ラブアン S59年政府建立支援



平和ソロモン慰霊公苑 ソロモン諸島ガダルカナル島 S55年協会建立



グアム島平和慰霊公苑 グアム島 ジーコ村 S45年協会建立

理 依 頼

サイパン島マッピ岬の荒廃した慰霊碑

備民さ戦ピ 間れた地平成 るととも 区成 カン ら荒遺の30 の廃族 日年 募し等本度 金たが政は 民 建 府 を 地原間立建サ 元資建 し立イ 立た慰パ  $\mathcal{O}$ کے 慰ま霊 L 達 7 霊ま碑 に再碑放裏 7 維整を置に

上 で 公 財 太平 戦

管

を

ま

3

t

邦

ゴマ

慰市連

ア

ミャンマー連邦ヤンゴンにおける追悼式



再整備後の慰霊碑の状況

1慰霊協 会 0 文紹 青 圓 型 わ洋 藤 春り ま 争 喜 す。 戦 没

### 事 務局からの報告等

# 平成30年度第2回通常理事会の開

開催された。 通常理事会が当協議会会議室に於いて 3月6日 (水) 平成30年度第2回

れた。 ずれも事務局案が、 議題について熱心な討議が行われ、 会議においては、事務局からの提出 原案どおり承認さ *\*\

③平成30年度下半期職務執行状況 ②平成31年度以降の財産運用 ①平成31年度事業計画書及び同収支

理事12名中10名及び監事2名中1名

# 慰霊祭等への参加状況

○硫黄島帰還遺骨引き渡し式 JYMA日本青年遺骨収集団慰霊 会から伊藤隆専務理事が参列した。 遺骨引渡式が執り行われ、当協議 おいて、 2月14日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に 硫黄島戦没者遺骨収集団

3月16日、 靖國神社においてNP

今年度収容された30柱のご遺骨は

等攻隊全戦没者慰霊祭 3月30日、靖國神社において(公 理事が参列した。 祭が執り行われ、当協議会から伊 による第40回特攻隊全戦没者慰霊 行われ、当協議会から伊藤隆専務 団主催による戦没者慰霊祭が執り 〇法人JYMA日本青年遺骨収集 特攻隊戦没者慰霊顕彰会主催

### Ξ 硫黄島遺骨収集事業への参画

藤隆専務理事が参列した。

して、 2月14日に厚労省に引き渡されました。 苦労されました。お疲れ様でした。 で行われ体力の消耗が著しく、大変御 4回派遣が1月29日から2月14日まで 実施され、当協議会からの派遣団員と しご遺骨の収集に献身されました。 今年度収容された42柱の御遺骨は、 収容作業は、高温多湿、 平成30年度硫黄島戦没者遺骨収集第 (公財) 水交会から2名が参加 狭い洞窟内

# 海外戦没者遺骨収集への参画

集派遣が3月1日から14日の間実施さ たりました。 國澤事務局長が参加し遺骨の収集にあ れ、当協議会からの派遣団員として、 平成30年度ミャンマー戦没者遺骨収

3月14日に厚労省に引き渡されました。

### 五 新入会員 (敬称略)

| 賛助会員| (平成30年12月1日\\\
平成31年2月28日) 髙橋 芳幸 (五十音順)

拡大し、カラー化しました。新年度から広報誌をA‐4版に高齢の方の見易さを考慮し、編集方針の変更

平戈1::・ り立つております。 様の会費・寄付金等の浄財で成 を が会費・寄付金等の浄財で成 には、「慰霊」46号に払込取平成31年度の年会費未納の 費納入にご協力をお願いします。 票を同封しておりますので、 当協議会の活動は、 会扱方

**寄稿のお願い** 当協議会は、広報誌「慰事を、年3回(1月、4月、9日 発行しています。 当協議会は、広報誌「慰事 でパ ら努めて添付をお願いします。、す。関連の写真等がありましソコン作成のいずれでも結構原稿は、手書き、ワープロ、 げ積 ま極

# 当協議会会員ご入会のご案内

おります。 頼りに、戦没者慰霊の事業を運営して からお寄せいただく貴重な会費収入を 当協議会は、 民間有志の会員の皆様

上げます。 協議会会員ご加入を心からお待ち申し の永続と充実を希う多くの皆様の、当 この国の大東亜戦争戦没者慰霊事業

を賜りますようお願い申し上げます。 の方の新規入会勧誘に、格別のご協力 会員の区分と年会費は 既加入会員の皆様には、お知り合い 次のとおり

賛助会員

(本会の趣旨に賛同する個人)

賛助特別会員 年会費 (特別御芳志の賛助会員)

正会員 (本会の趣旨に賛同する慰霊目的

五〇〇〇〇円

年会費 の法人・団体)

9慰月霊

几

特別会員 (本会の趣旨に賛同する企業・ 法

年会費 一口 10000円

人団体)

一口以上

振込先口座番号 四〇-六-三三四九三〇 (郵便振替口座

									慰	第42	号 平成3	L年4月1日	(16)
31 <b>1</b> 0 <b>£</b>	132・3月 132・3月 143・3月	#23・2・3 第2・2・3 第23・2・3 第23 第35 第35 第35 第35 第35 第35 第35 第35 第35 第3		度 3131 ・ 8 8 7 ・ 2415	年(日曜日・	131 <b>年</b> 31 <b>・4</b> 4 · 6	323131 3 8 6 月 6 15	度 第3131 • 8 8 <b>行</b> • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	31 4 · 6	(公氏) 治院会 (公氏) 治院会		年 月 日	協議会参加
11時~15時	全国プロログS 32・3月 1時~15時 JYMA インリンディンデンデン・		【11時~4時 11時~4時		祭日) 10時~15時	14時30分~16時30分	1010 9 時30分~11時	10時3分~12時15分 9時~10時	14時5分~16時	11時00分~22時	大東中戰争全戰沒者慰霊団体協議会 ・6 式典12時~ 平成 平成	嵵	(各団体が主催する慰霊行事を主とし、 <b>議会参加各団体の平成31年度慰</b>
ソロモン群島方面戦没者慰霊祭	JYMA慰霊祭・活動超長会	山下奉文大将尉霊祭	新年の集い合同尉霊祭	みたま祭 群馬買ぶ戦没者追悼式 ALSO	靖國神社社頭広報下で「同期の桜」を歌う会	第55回壖或神社の桜の花の	鹿児島戦没者墓地尉 <del>雲</del> 祭 大東亜戦争戦没者尉雲祭 鹿児昌県沖縄戦没者尉雲祭		下で「司朝か妥」を飲え会第5回遠國神社の桜の花の	第52回予科練戦没者尉霊然	全戰没多合同慰霊祭平成3年度大東亜戦争	(尉)訾奕行事名()	協賛事業は割愛
靖國神社	<b>靖國神社</b>	青葉園	能本縣護国神社能本縣護国神社	群馬縣護国神社 ALSOKぐんまアリーナ	清國神社 <u>参集</u> 殿前 益次郎像前	<b>墙或神社大村</b>	鹿児島戦護国神社鹿児島戦護国神社	靖國神社境內靖國神社境內	选 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	陸自士浦駐屯地内	靖國之館社	場所	(情報入手分のみ)

112	٦٦٨	国神社社	と	<b>参</b> 集殿前 一次郎像前	·	護国神社	<b>言</b> 持 達殿 情殿 情	字 村 野 市 地 内	☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆	Ø	\( \) \( \) \( \) \( \)	のみ
31 <b>日</b> ・ 11 <b>代</b> ・ 15 <b>全</b>	<b>具書する</b>	313131 313131 8 8 8 8 161510	延路第3131 ・ 10 5 6 11 4 7 5 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7	3231 3231 3 8 3 8 2015	32 31	ਜ •	東 第31 <b>2</b> 第10 110 118	323131 · · · · 2 8 5 • · · · 2215 8	筑後地区偕行会   31・11・3   11・3	レ・・ 710 6	<b>全国メレヨン会</b> 31・4・7	(年 月
14 時~15 時	· 6 - 月	91010 時時 〈 〈 〈 121612 時時		99時~	11 時~14時~30分	多战役者对重调影会10時~15時~15時~前国	13時~4時3分 13時~4時3分 秋	111010 1111010 111時 1212 1215 1215 12	10 時 14 時	11 11 時 時 14 13 時 時	11 時	日)(時間
山口県陸軍墓地慰霊祭	宮崎県出身戦没者慰霊祭	田中静壱陸軍大将顕彰碑慰霊祭英霊感謝祭(英霊顕彰の集い戦没者追悼慰霊祭	福岡陸軍墓地慰霊祭福岡県特攻勇士慰霊顕彰祭	招魂慰霊祭ハワ盆法要	3分 第40回特攻隊全戦没者慰霊祭3分 第68回特攻平和観音年次法要	国神社永代神楽祭奉斎	。分 秋季慰霊祭	<b>医生长</b> 、爆弹三勇士慰霊祭 、戦没者慰霊平和祈年祭 12時 人留米市戦没者慰霊祭	全ビルマ方面戦没者慰霊祭	東京メレヨン会慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	慰霊祭 備後護第50回全国メレヨン島戦没者追悼	(慰霊行事名)
山口県陸軍墓地	宮崎縣護國神社	祭につの市龍野公園の一般のでは、一年のでは、一年のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本の	福岡陸軍墓地福岡縣護国神社	ワイマキキ日本海軍墓地ワイマキキ日本海軍墓地	慰霊祭 靖國神社 世田谷山観音寺 次法要	(年次総会) 靖國神社	千鳥ヶ淵戦没者墓苑	人留米市忠霊塔 久留米市忠霊塔	赤國神社	千鳥ヶ淵戦没者墓苑札幌護国神社慰霊碑前	備後護国神社慰霊碑前署追悼	(場 所)